



大阪錦画日々新聞紙 53号

喜三といふ男の
 男の貞節を
 出来ていふこと

武洲八王寺宿中 孫く年をも
 丸竹を吹さるるふよ女按摩
 世を言目目闇をよふ半葉も笛の
 細音をたつつけたるる鹿の真似も
 馬鹿おみやり入り男モシらんさんお
 一緒お来て下といと同道しと畑の中へつれ往て
 強て無心を云くおれお持てん否と男お
 喰つき血で白を引うく騒きもやを落
 つき此をあへたつと証状と其夜互ひひ
 引るる翌日押入八十余の母をれ同宿寺町の
 佛師やへ来て昨晚此家の旦那が焼めて否と
 しのをわやふ承知を嫁おしとやと約束せし証状か
 そつちお揺さ死と此をいへるうら間かひいとわりのまま
 此家お教書駭しと家かひいと中へおれれ果か
 あるおけお所の者もつらつて詮議をせぬ

喜三といふ男の
 男の貞節を
 出来ていふこと

ナニと喜三といふ男の
 男の貞節を
 出来ていふこと

事おら
 やしくおら
 海くおら
 の付ける仏師
 垢ぬきし
 美知し

錦
 画
 九
 南

大阪錦画日々新聞紙53号 文庫10-8068-40
 早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

